

東京冀北会会報

東京冀北

第21号



東京掛中・掛西同窓会会報

近年、パソコンや携帯電話の普及により、職場でも私生活でも情報の交換が大変便利になりました。しかし、当然のことながら、簡単なことを決めるときは便利になったとしても、大切な問題の調整は、やはり人間同士の交渉に頼るしかないと思いますし、社会の複雑化に伴って、そのような人間同士の交渉・調整を要する局面（仕事）は却って増大しているように思われます。私も、サラリーマン生活を通して、政策の企画立案やプロジェクトの遂行の際に、このような調整の問題に悩まされてきましたので、その際に特に気をつけていたことを少しキザですが「調整五訓」として掲げてみました。当たり前のことばかりかもしれませんが、皆様のご批判をいただければ幸いです。

第一に、「周辺の情勢を知るべし」ということです。相手方と自分の置かれている立場の現状と周辺の情勢を知ることの重要性は、改めて申すまでもないと思います。

第二は、「しっかりと交渉相手を見つけるべし」。特に組織同士の交渉においては、窓口となる相手方の組織内における地位や発言力が極めて重要だと思いますが、この点については、必ずしも当方で決めることのできる事柄ではないのかもしれないと、落ち着きどころを自分なりに考えておくべし、ということですが、その場合に決定的に重要だと思われることは、第一に自分の考え



東京冀北会会長 河原崎 守彦 (高九回卒)

調整五訓

平成20回東京冀北会総会・懇親会会計報告 (2008.11.6)

出席者	
会 員	110名
来 賓	6名 (掛川西高等学校校長他5名)
計	116名
有料出席者	108名 (元応援団(現学生)2名は年会費のみ徴収とした)
当日会費前払	70名 (210,000円) 一般会計 収入扱い
祝儀	6件 (掛川西高校長、同窓会会長他4名)
寄贈品	8件 佐野角大様(高8)、赤岩 定様(高10)、石川嘉延様(高11)、坂本武信様(高14)、竹原繁男様(高16)、朝比奈豊様(高18回)、鈴木良彦様(高18)、野川雅江様(高26)
収入の部	
総会参加費 (5,000円×110名)	550,000
祝 儀	66,000
計	616,000円(A)
支出の部	
会場費 (文洋亭イハートホール・取付費含む)	118,886
宴会費 (銀座プロックスム)	577,311
来賓お礼 (なごみの米屋他)	16,875
総会運営費 (スタッフ反省会費)	35,000
雑費 (振込手数料、備品運搬費等)	7,260
計	755,332円(B)
差 収 入 (A) 616,000 - (B) 755,332 =	△ 139,332円
	(一般会計より支出)

平成20年11月30日
東京冀北会 事務局長 山崎 進

平成20年度東京冀北会収支報告 平成20年4月1日～平成21年3月31日

(収入) 前年度繰越金	839,672
年会費 (郵便振替分)	659,880 (220名)
” (現金納入分)	213,000 (71名)
総会懇親会参加費	550,000 (110名)
役員・幹事会費 (個人負担)	144,000 (48名)
雑収入 (祝儀・預金利息)	60,103
計	2,472,655円 (A)
(支出) 印刷費 (総会通知 式、会報 宛名ノール、封入作業費他)	638,820
総会通知郵便費 (1523通)	121,840
総会志信後納費 (329通)	21,385 ※1
総会・懇親会費	755,332
会合費 (幹事会・役員会等)	215,564 ※2
出張・祝儀費 (掛川、浜松)	66,000
通信・物流費 (郵便、宅配便等)	51,960
事務費 (事務用品、管理費等)	83,554
寄付 (選抜野球出場)	100,000
計	3,052,455円 (B)
(収支残高) (A - B) =	420,200円 (次年度繰越金)

※1 総会志信後納(送料)取戻金
※2 役員・幹事会費(個人負担)144,000円(48名×3,000円)を徴収
会計監査 遠藤 義明 (高16回卒)
会計監査 森田 重敏 (高21回卒)

注) 総会有料出席者は会員110名、来賓6名、元応援団員2名でした。

編集後記

去る十月十八日に、掛西第十二回卒業同級会がヤマハリゾートつま恋で開催行ってきました。昭和三十五年(一九六〇)三月、二六四名が掛西の校門を去って来年で五十年にになります。それを記念して地元掛川在住の幹事の尽力により六十名の同志が集まりました。また都台で出席できなかった百余名のメッセージも寄せられ、約六割の方々の動向を知ることが出来ました。

六時からの開宴に先立ち、鬼籍に入られた二十名の方に黙祷を捧げ、その後は五十年前にさかのぼり話の渦に巻き込まれ、美味しい料理もそっちのけで、ひたすら久し振りに友人と喋り捲る島があっちこっちに見られ、あつという間の三時間でした。最後は「岩根ごしき天守台」で締め、その後も深夜までおおいに楽しむことが出来ました。

翌朝も去りがたく、また会おうねを台言葉に三々五々散っていきました。(Y記)

発行日 平成二十一年十一月五日
発行者 河原崎 守彦
発行 東京冀北会事務局
印刷 柳文洋社

校歌

作詞 藤井金吾
作曲 堀 福寿

一、岩根ごしき天守台
その麓にぞわが校は
基定めて逆川の
栄え行くこそ楽しけれ

二、雨降り嵐すきぶとも
指してや行かむ小笠山
希望の懸を射るまでは
めげず撓まず屈折れず

六、やがてまことの敷なし
誉れは栄ゆる百々錦
飾りて花の色そへよ
大和島根の山桜



の根拠が公正で明確であること、そして第二に基本にかかるとは別として、自分の考えにこだわらないことであると思います。特に前者については、交渉の相手方のみならず組織全体を説得できる根拠を要すると思いますし、後者については、交渉の成り行きを第三者的に客観視できる余裕が必要であると思います。

第四は「大義名分を説き、相手方との共通の基盤（利益）を見つけるべし」。大義名分というところと少しく大袈裟ですが、要するにその交渉により実現しようとするものが、単に当方の利益になるだけでなく、道理にかなったものであることを理解して欲しいということだと思います。また交渉はとかく対立しやすすいものであるだけに、相手方との共通の基盤（利益）を見つめる努力が、何事にもまして大切であると思います。そして共通の基盤（利益）が見つけられたときは、知恵をしばって解決策（それはコロンブスの卵のようなもの）を考え出すこと、そこに対立を解く鍵があるように思います。昔読んだキツンジャー回顧録に、「交渉を前進させるものは、自己の考えを声高に主張することではなく、共通の利益を見つめることである。」というような言葉があったと記憶しております。第五は「きめ細かく対応すべし」。交渉が組織同士である場合は特に、交渉相手が自らの組織内を取りまとめようとしている際に出される疑問には、素早く、的確に回答する必要があります。そのような交流を重ねることによってお互いの信頼を培っていくことが大切であると思います。

わが国では昔から「至誠天に通ず」といわれ、うそ偽りのない真心で事に当たれば、事態は自ずから解決に向かうというような考え方があります。しかし、識者も申しているように、至誠が大切なことは明らかであるとしても、それは独りよがりになりやすく、他人の事情を考慮していないように思います。現代の社会のように多様な考え方の調整を要する場面では、信義誠実を基本としつつも、更に客観的、実践的な調整方策について考え、実行し

さったのが松本信孝先輩です。

その後、二十余年前、自治省に在職の石川嘉延さん（前静岡県知事）から同窓会復活の相談があり、有志一同準備を進めるなかで松本先輩は喜んで参画して下さいました。そして東京東北会発足後も、高齢にも拘らず年次総会には数回出席され、閉会後私はいつもお宅までお供して送りました。

世話好きな松本さんは川柳の目黒田園吟社も主宰され心憎豊かなお人柄でした。

○不束も

子が生まれると

尻へ敷き

○世は変わる

明治の好きな

下駄の音

略歴

昭和三年 県立掛川中学
二十四回卒業
中央大学法科卒業
内務省に奉職
退職後 松信電機を創業
(皇宮警察御用)

平成二十年十一月五日 逝去
九十七歳



筆者 (中38) 丸尾武二氏 (中26) 松本信孝氏 (中24) 鈴木善則氏 (中34)

謹んでご冥福を祈ります。

ていく知恵が求められていると思います。このような地道な調整の成果のうえにこそ、経済上の果実も、政治上の政策も成立するものでしょう。とかくわが国では、既得権を重視し、変革を嫌う傾向が強いように思いますが、このような硬直化が社会の衰退を招くことは歴史の教えるところですし、社会の変化を先導するような果敢な調整を通して、社会の若さを保っていくように各人が努力したいものだと思います。

追悼 松本信孝先輩

のぶたか



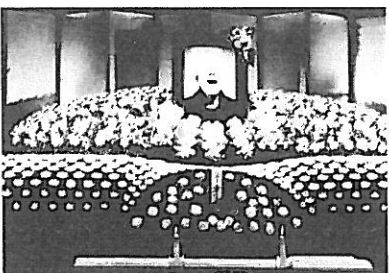
岡本 甲子男

(中三十八回卒)

東京東北会は発足二十周年を数えましたが更に遡って三十年、昭和三十年代に既に掛川中学在京同窓会は発足しており、日まで半世紀の歴史があります。

昭和四十年頃、若輩の私は近隣出身の先輩に誘われて初めて参加した時から数十人の立派な先輩達に気後れしながらも親しい交流のなかで大いに啓発されました。

この同窓会で長年にわたり幹事役を勤めて会の存続発展に尽力下



昭和十五年生まれ

今村 公子

(高十一回卒)



掛川西高に入学して間もない頃、或る教科担任が教室に入ってきて出席を取った後、名簿をじっと眺めて言った。

「君達は昭和十五年生まれか?」「はい」「やつぱり。十五年は紀元二六〇〇年だからだ。名前に紀の字が多い。時代を背負う人ができるかな」

頭の隅に残っていたこの言葉を同窓会名簿で前後三年を調べてみた。

第十回生 ○名、第十一回生 十名、第十二回生 ○名

私達の多くは昭和十五年・西暦一九四〇年・同時に皇紀紀元二六〇〇年生まれである。

何も知らずに生を受けた私達は、人生の大きな節目と、時代の節目とが重なる幾つかの時を、最初に通過する運命にあった。

昭和二十二年四月、国民学校改め小学校一年生になった。戦後の諸制度も整わない中、三月三十一日付で新教育基本法が公布、即四月から実施ということになり、新教育制度がスタートした。新教育一年生でもあった。

同級生（佐東小学校）の中に、将来の時代を託されたホープ「石川嘉延さん」がいた。

彼は、中学時代（城東中学校）になると、リーダーとしての資質がぐんぐん育ち、学業は元より、部活（バレーボール部）に生徒会活動に合唱コンクールに英語弁論大会等々と、多方面での活躍で、先

生からも友達からも信頼される存在になっていった。中学生にして希望の星の地位を不動のものとしていた。

時が過ぎた或る日、静岡県知事選挙に出馬すると聞いた。彼が政治家を目指していたことは分かっていたので、好機到来と大いに喜び、心からの声援を送った。

昭和十五年生まれのホープの出番である。

やっぱり彼は、予言通り時代を背負う運命の人だった。

私達の故郷・静岡県知事の重責を四期も務め、此の度退任された。

ご苦労様でした。

人生の価値



加藤 徹 (高十九回卒)

これは以前の日本内科学会のテーマであり、この時特別講演をされた柳田邦男氏のタイトル「価値ある人生のために」から一部を活用させて頂いて、考えを述べてみたい。

近年「尊厳死」ということはよく聞かれると思う。これは治癒することがなく、余命が限られているという方が、無駄な延命をしないことを宣言しておくことと捉えがちだが、実は最後にこれだけはしておきたいと思われれることを、なるべく意に沿うようにするという事も含む。余命がそのために短くなるとしても。

この余命を知くしても、ということが重要なのである。ここで先の柳田氏の講演から引用させて頂くと、彼は子息の死を間近にして「フ

ランダースの犬」を読み返してみた。少年が死ぬかわいそうな話と思っていたところが、風でカーテンが開いてルーベンスの描く聖母の絵を見た時、ネロが「おお、神様これで十分です」と。ここで彼は人生とは長さではなく、思いが達成されることが大切なのだと述べている。この思いが人生の価値であり、この思いを遂げるか逃げようとするかが価値ある人生を送ることになる。人生の価値は人それぞれであり、他人が評価すべきことではないから、私達医療にかかわる者は十分に尊重し、本人とよく打合せた上で余命を敢えて縮める手段を取らざるをえないこともでてくるだろう。このことより最近青少年の犯罪の報道で「まさか死ぬとは思わなかった」またこの事を受けて校長が「命は大切」と訓示をされたと伝えられるが、命は大切か？

多くの方に、自分が認知症になって家族も分からなくなったらどうしますか？と聞くとその時にはボククリとねーなどと言われる。即ち自分が自分らしくできる時は命が大切ということなのだろう。であれば命が何時までも大切だと思いうことができ、価値を探しながら寿命を全うしたい。だが人を傷つけて不自由を与えればその人の人生の価値を奪う事になり、それを得るチャンスは失わせる。命を削っても達成したい「人生の価値」を奪う権利は誰にも無い。訓示をするなら「人を傷つけてはならない」と教えるべきだ。

まだこの世の中には、解明されていない疾患が山ほどある。親を看取った子供が同じ遺伝性の病気を発症してゆつくりと同じ死への道をたどる。清らかな意識の中で死を受け入れるのはどんなにつらからうか。そこからは何うよしもない。有効な治療を持たない我々医師や看護師達は横に立って、手を握って話を聞いてやることしかできない。そんな立場にいるものとして、子供達に人を傷つけるな、人の生きる価値を奪うなと教えてほしい。

大人たちは価値ある人生を生きききたらどうか？これから生きていく人生の価値はなんだろうか？余命が残り少ないと告げられたとき、最後にしたい価値あるものはなんだろうか？

故郷は遠くにありて思うもの



遠藤 直子 (旧姓 三枝)
(高十九回卒)

ついこの間駿河湾遠州地方に大きな地震があり、早朝のテレビにて震源地を知り、ついに巨大東海地震かと驚き、すぐ実家に電話しました。ようやく繋がった電話で家族の安全がわかりほっとしました。買い物でも静岡県産とあると迷わずそちらの方を選択します。若い頃は、故郷の祭りにはあまり関心がありませんでしたが、今でも身体のどこかに、お囃子のリズム・掛け声が潜在してあります。しかし、その日に合わせて田舎に行くことはなかなかできません。故郷、遠州横須賀の山車は徳川時代に参勤交代にて江戸から伝わった神田囃子の流れをひいています。そのため何年かに一度、東京の大江戸祭りに神田囃子に縁のある山車が各地から日比谷公園に出揃うイベントがあり、必ず見に行きます。川越祭りの山車もルーツは同じのようです。横須賀の山車は二つ輪なので「シタツ、シタツ」の掛け声に調子を合わせ、上下左右に町を練り歩きます。その祭囃子に合わせ、おかめ、ひよつとこが演じられます。そのイベントが東京で催されると、山車のまわりに関東一円に住んでいる故郷出身の人達の顔がそろう。中には法被を用意していて、田舎から曳くために来た人達と一緒に江戸の町を練る人もいます。私達は歩道から山車を追って移動します。お囃子がとても調子よく、自然に腰が浮かれます。又、夏になると静岡県の高校野球のニュースがなんとなく気になります。高校一年の時、夏の選抜で掛西が静岡県代表となり、私達は甲子園に夜行列車で応援に行ったことがあります。校歌・応援歌はものすごい特訓のおかげ

で今でもこれだけは覚えています。やつと心にゆとりが持てるようになった現在、故郷がとてもしなつかしく思います。私は帰省するたびに、故郷の海・遠州灘を見に行き、心が癒されます。その浜から拝む初日の出は神々しく感動を新たにします。

人はみな点で始まる初明かり 直子

この五月には趣味の俳句仲間と袋井の油山寺可睡齋へ吟行に出かけ、初めて、坐禅を体験し、精進料理を美味しくいただきました。故郷を出て早や四十余年が過ぎました、今後の私の未来はどのような彩になるかわかりませんが、故郷の自然・暮らし・人情等を原風景とし、健康を大切にしながら、何事にも好奇心を持って前向きに暮らしていきたいと思っているこの頃です。

掛川西高同窓会総会を振り返って

加納 ケンジ (高十九回生)

去年の事！でした。同級生の中山礼行から今年の総会も加納君に講演をお願いしたいと(十九回生が今年の同窓会幹事役だった)。

十年前、「音楽は恋人」のタイトルで、すでに講演済だった、エンターテナーは加納しかない！と再び依頼された、講演とは言え、ピアノ弾き語り演奏が私のスタイルだ、難しい話ではなく、音楽の魔法で皆を楽しませる事が、私の得意技。実は私のピアノ伴奏が魔法と

なって、自然と歌いたくなる雰囲気を作り出す、リラックスした気分
で青春時代へタイムスリップさせる「歌」は本当に不思議な力がある、
私の役割は果たして？

そして、八月十五日同窓会総会が無事終わった。私達十九回生の結
束力は素晴らしい。同級生の絆は凄いなものだ、今回の総会を成功
させよう！副会長の橋本は必死だった、講演の予行演習まで行った、
東京地区（翼北会）メンバー二十数名がそのリハーサルに参加して、
意見交換まで行った、場所は霞が関ビルでピアノまで用意しての、本
番を想定してのものだった。弁護士の鈴木正氏は誠に頼もしい友だ、
彼が居てくれるお陰で、何事も上手くまとまる。我々、困鬼世代は、
実に個性豊かだ、私の様な変わり者でも、皆、誇りに思っただけで
くれる、本当に嬉しかった、その仲間から沢山のパワーをもらい総会
に臨んだ、会長の中山からは「加納らしく楽しいパフォーマンスを演
じてくれ」と頼まれた。

今回のステージは十年前と違って私のピアノ弾き語りに加え、ソフ
ラノ・フルートと三人のメンバーで演奏した、少年時代・時には昔の
話を・見上げてこらん夜の星を・等、懐かしいプログラムだった、
会場の皆さんと一緒に夏の思い出・学生時代も楽しく歌った。

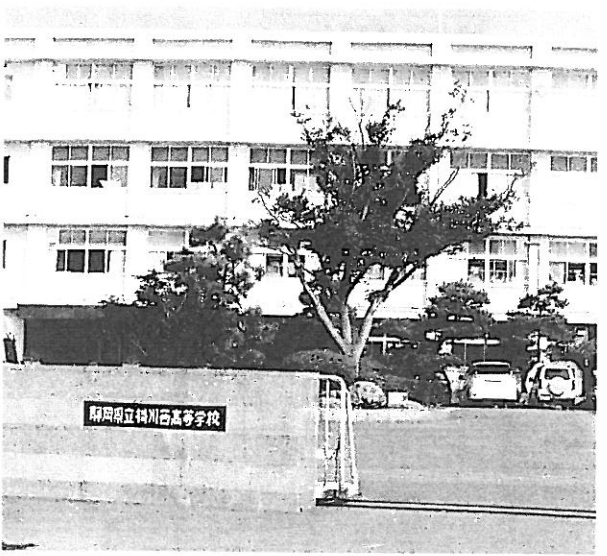
かつて、運よく東京芸大にストリートで入ってしまっただけ、当時、
国立大学で唯一、数学・理科の試験が無かった時代だ、夜遅くまで学校
でピアノと音楽を勉強し、受験に関係ない科目は殆んど捨てて専門だ
けに打ち込んだ、そんな頃が懐かしい、若い頃の私は芸術家気取りで
プライド高い嫌な人間だった、人生の半分過ぎて気がついた、「大衆
に支持されない音楽・文化は育たない」悲しいかな、未だに、クラシッ
ク音楽・オペラ等中々浸透しない、その原因は演奏そのものにあるに
違いない。私の音楽に関するポリシーは、まず楽しく、わかり易く、
大衆的で、それなりの感動を与えられる演奏でなければと思う。

それぞれの国にはそれぞれの文化がある、しかしながら最近では、
多文化になり過ぎ、その個性を失いがちである、その原因はいつた

トレス発散、豊かな感性・表現力をもっと身につけよう、還暦を過ぎ
ても遅くない、変なプライドを捨てて楽に生きて行く、音楽を一つの
接点として多くの仲間と出会う、素晴らしい事だ、私の夢・希望は楽
しく歌えるコーラス・グループを作り、出来れば掛西同窓生で！

そして、仲間たちに音楽の喜び・楽しさをもっと伝えたい、お互い
をリスベクトし、心を開き、笑顔で語り合える友が沢山出来る事を願
いたい。

今回の同窓会で沢山の懐かしい友と再会出来、本当に有意義で楽し
い時間を過ごせた事に感謝。
そして、お世話してくれたスタッフにお礼を言いたい。ありがとう。



い何だろう？余
りにも自由主義
過ぎるアメリカ
の文化が各国の
文化を潰してい
る様な気がする。
特にオペラの開
イタリヤでは、
深刻だ！異文
化の音楽が、影
響を与えている、
親子代々家の中
では、好きなオ
ペラを口ずさん
でいたのだ、一
方、日本はどう
なのか？あんな
にも流行ってい
た演歌がやはり
ピンチだ、全ては時代の流れと共に文化も変化している。

音楽の魅力は一体何だろう？心地よさ・癒し・夢の世界・気分転換・
豊かな感性・いろいろだ。人それぞれ感じ方が違う、なんと言っ
ても楽しいのが原点だ。

私自身、ナンバーワンではなくオンリーワンを目指し自身の技術を
磨く事が生涯の課題だ、ピアノ弾き語りは、一人二役だ、神から与えら
れた才能？を職人芸として発揮したい。アーティスト（芸術家）とは
他人が決める事で、自分自身をアーティストと名乗る人の気が知れな
い。

ここで友に伝えたい、音楽に親しみ、健康のために楽しく歌い、ス



掛西東京OB会へのメッセーヂ



栗倉 健二 (高十三回卒)

今回やむを得ぬ事情にて欠席、諸先輩や皆様とお会いしたかったの
ですが、真に残念です。ご盛会を祈念すると共に、皆様が心の中に「青
春」の気概を強く持って、ますますお元気に活動されますようお祈
りいたします。

ところでサミュエル・ウルマンの「青春」の詩は「人生の応援歌」
と呼ばれ、人の心に勇気と力を与えてくれます。終戦後の松永安左衛
門、松下幸之助、伊藤忠兵衛等はじめ、宇野収、盛田昭夫、中曾根康
弘さらには近年の「企業経営者の座右の銘」トップ5（朝日新聞他）
にもリストされ、実に多くの歴史に名を残す方々が座右の銘としてき
たことが知られています。本日は、この「青春」の詩を、あらためて
皆様にお届けして、小生のメッセーヂに代えさせていただきますと存
じます。

（なお当方、ウルマン著作物の使用許可をお孫さんからもらって
おり、翻訳は現地大学の先生方の協力を得て作成したものです。小生米
国在住当時、ウルマンが「青春」の詩を書いた自宅を、取り壊しから
救うボランティアをやりました。今、その家はミュージアムとなっ
てアラバマ州にあります。このミュージアムは、ウェブサイトで館
内のバーチャルツアーが見られます。

また、「青春」の詩原文と設立時の状況は、粟倉健二のウェブサイトにてご覧いただけます。

青春

青春は人生を彩る季節の一つではなく心の姿
若とも貴く志もだキラメク創造力だ
燃え上がる情熱だ 弱さを締め出す勇気だ
逃げを許さぬ冒険心だ
人は年月では老けず
理想を失う時に老い込む
年をとれば顔にしわよるが
情熱を失えば心にしわよる
憂い 不信 自信喪失 恐れ 絶望などを
まるで長年月のように老いと呼び込み
いきいきとした魂をゴミに変える
七十歳も十六歳も人の心は驚きに惹かれ
望のように輝く仕事や考えにあこがれ
どんなことにも真向挑戦
次はなに?とあきず求める子供のよう
人生ゲームのよるこびを道う
人は信念を持つとき若く 疑いを持つとき老いる
自信を持つとき若く 絶望すれば老い朽ちる
希望を持つとき若く 恐怖すれば老い朽ちる
美 毒び 勇気 偉大 そして力の呼びまを
天から地から そして人から
心に受けているなら若い
アンテナが倒れて 電波が途絶え
心の底が悲観の雪や 皮肉の水にとどされたなら
もう本心に老いばれて
神に衣れみを乞うしかなくなる

●東京翼北通信●

増田 泰次

中二十九回卒
泰次の娘が代筆させて頂いておりま
す。
父は十月十九日で九十四身になりま
す。
足腰は弱っておりますが、まだ近所
の床屋に一人で出かけて行きます。
最近白内障の手術をして以前より
はっきり物が見えるようになりまし
た。野球は喜んで見ております。

岡本 良夫

中二十九回卒
何分九十四才で足・腰十分でありま
せん。不悲す。

大家 睦美

中二十九回卒
私も今年八十五才となります。
足・腰も不自由となりましたので持
来会の行事に出席などはとめてしま
せん。

鈴木 博人

中四十回卒
八十才を過ぎてから年毎に体力のお
とろえを感じております。通院は3ヶ
所に増えており身体管理が仕事になっ
てきました。
幹事の皆様の御尽力を感謝致しま
す。

熊沢 兵次

高一回卒
病氣入院中でしばらく動けません。
病気が出来ないのでしばらく退会させ
て戴きたくお願い致します。

長谷川 武司

高一回卒
既に退職し会社の顧問を務めていま
すが、大学のクラス会勤務した会社の
OB会には毎年出席している。然し翼
北会(東京)には以前出席したことが
ありますが高二回の我々は出席率が悪
い。今後七十五才以上の人は会費を五
〇〇〇円に据置くとか年寄りに対する
配慮を欲しいと思う。

滝根 一秀

高一回卒
出席したいと思っておりましたが当方
の案内が病氣のため長時間家をあける
事が出来ず欠席します。

糸田 光二

高一回卒
私は水戸市内一菜局の管理業教師を
して元気に過しております。

川島 常雄

高四回卒
元気で暮しております。
盛会をお祈り致します。

落合 暁雄

高四回卒
生憎く先日先約行事と重なるため欠
席させていただきます。
小生、日頃は老人クラブ仲間と囲碁
や小旅行をしたりして過しております。

後藤 陽一

高四回卒
いつもご案内いただき有難うござい
ます。
元気に過して居ります。
よろしくお願ひ申し上げます。

「二宮金次郎の一生」三戸岡道夫著 日本文芸アカデミー賞を受賞



「二宮金次郎の一生」が平成三十一年度の日本文芸アカデミー賞を
受賞いたしましたので、ご報告申し上げます(八名受賞)。

日本文芸アカデミー賞は、芥川賞が二十歳前後、直木賞が四十歳前
後を対象とするのに対し、五十歳以上の作家を対象とする、十年の歴
史を持つ賞です。

皆様のご支援の賜物と、ご報告申し上げます。

大貫 満雄 (中四十二回卒)
筆名・三戸岡道夫

小栗 秀介

高五回卒
二年前より体調不良により毎月の病院
通いです。時々眩暈い起りますので好
きな(ゴルフ等)運動も全く出来ませ
ん。皆様によりしくお伝え下さい。

小原 賛治

高六回卒
自宅裏に六十坪ばかりの土地を借り
て菜園を作っています。もう三十年に
なります。

大草 保

高七回卒
すでにリタイヤ九十年となり、現役
中、不義理していた身内のおつき公
いにてウエイトをわいて生活してありま
す。
今般も欠席とさせていただきます。
会が盛会であるよう願っています。

田中 義則

高八回卒
バスケットボールシニア全国大会に
出場しております。
七月神戸、九月北海道大会
十月代々木体育館に於いて全国大会
頑張っております。

鈴木 昌

高八回卒
ハーモニカ演奏でライブ活動、マ
ジックショーでボランティア活動をし
て、十二年間継続し、回数も四百十回
を記録しました。今後も継続してい
ます。

角皆 静男

高九回卒
毎朝日出前三、四キロ走っております
が、最近急に記録が一分ほど悪くなり
ます。

福澤 岑夫

高九回卒
暗唱雨読の毎日です。
国民文化祭の合唱団に引っぱりださ
れて、老骨に鞭打って練習中です。
都合により出席できません。
御盛会を祈念します。

藤田 敏

高十一回卒
いつも大変お世話になりありがと
うございます。
貧乏暇なしで聖教新聞社退職後外部
の顧問と千葉日報社東京支社ステ
ィア研究所、すみタイムスでお世話に
なっております。楽しみながら仕事
ができ充実した毎日です。
十一月は行事が多く欠席失礼しま
す。

杉山 安宏

高九回卒
古希(七十才)を迎えた今年には仕事
は週三日勤務にスロウダウン。健康の
ためのゴルフの回数や増えたがス
コアは相変わらず不満足。まずは平穩無
事に暮しております。

大石 愛祐

高九回卒
いつも御世話になります。幹事様御
苦勞様です。小生現在千葉県松戸市の
里やまボランティア(里やま・千駄堀
の代表)をしており、当日は、本年度
の里やまボランティア入門講座(主催
側として参加)の方へ参加を予定して
おり残念ながら参加出来ません。悪し
からず御了承下さい。

福澤 岑夫

高九回卒
暗唱雨読の毎日です。
国民文化祭の合唱団に引っぱりださ
れて、老骨に鞭打って練習中です。
都合により出席できません。
御盛会を祈念します。

藤田 敏

高十一回卒
いつも大変お世話になりありがと
うございます。
貧乏暇なしで聖教新聞社退職後外部
の顧問と千葉日報社東京支社ステ
ィア研究所、すみタイムスでお世話に
なっております。楽しみながら仕事
ができ充実した毎日です。
十一月は行事が多く欠席失礼しま
す。

近藤 三郎 高十一回卒
老人会の旅行と重なり欠席します。

刀根 ちか 高十一回卒
今回は石川さんのお話があるから出席したいと思っておりましたが、残念なことですが、出席できなくなりました。

黒田 健之助 高十一回卒
当日は別件があり出席できません。不景気が続く中ですが、仕事を続けています。

中山 秀彦 高十一回卒
若者とソフトボールを楽しんでいます。

岩井 星道 高十二回卒
東京東北会総会には、現役のころ出席しましたが、大変御無沙汰しています。都庁に就職して、土木行政一筋、中央区役所土木部を最後に、現在は日本橋地域のコミュニティ相談員として働いています。皆様にごえることを楽しみにしています。

鈴木 安彦 高十二回卒
久しぶりには石川嘉延氏の講話も拝聴致したいのですが、当日都合がつかみませんので、欠席致します。

松本 信孝 中二十四回卒
平成二十一年十一月五日 死去

高木 徳太郎 中二十一回卒
器さも、脱落し、ようやく、しのごさやくなってまいりました。父高木徳太郎が今年の六月二十日に肺炎にて亡くなりました。生前皆様方には大変お世話様になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

中川 秀雄 中二十二回卒
祖父が大変お世話になりました。昨年十一月二十日享年九十歳にて老衰のため大葬をまっとういたしました。じくなるまで足腰はしっかりして、おりました。

訃報

鈴木 謙 中二十五回卒
平成二十一年七月三日死去(八十八才)

渡邊 兎雄 中二十五回卒
水くお世話になりました。主人兎雄は昨年十一月二十日八十八才で亡くなりました。

溝口 恒司 中二十四回卒
溝口恒司は平成十六年に逝去いたしました。

代筆 岩澤真知子(孫)
鈴木 謙 中二十五回卒
平成二十一年七月三日死去(八十八才)

小村 由美子 高二十回卒
女小村由美子(旧姓鈴木)高二十は、二〇〇八年三月二十一日に亡くなりました。連絡が近くなりましたが、お知らせします。

滝沢 昌之 高十六回卒
主人は亡くなりました。

木本 雄治 高九回卒
いつもお世話になりお便りを楽しみにしておりましたが、当平成二十一年八月二十一日に亡くなりました。生前の皆様のご厚情を感謝します。

丸尾先輩(右)「95歳益々元気」
河原崎会長あいさつ

千葉 日東 高十二回卒
犬の散歩(約五キロ)で、日が始まり猫の顔ほどの庭の芝刈り・手入れとアフローチの練習で、日が終る毎日で、

山川 俊宏(秘夫) 高十二回卒
翻訳家をしていましたが、白書を書き、九月十日、タイヤモンド社から本を出しました。

山本 孝之 高十二回卒
ふと気がつきましたら、小・中学生の学習指導を四十年もやっておりま

桑田 耿 高十三回卒
年金生活になり掛川も遠くなりました。又晴晴らしに週四日働いていますので、今回も出席できません。

戸倉(波多野) 律 高十三回卒
代母りに実家も遠く、掛川に帰る事もなくなり文字通り八十子の住人になりました。

佐藤 惇 高一回卒
長い間いろいろお世話になりましたが、去年死去しましたので、お知らせいたします。

清水 猛 中二十七回卒
去年暮れに主人は遠い所へ旅立ち再びかえらぬ人となりました。残念です。

勾坂 達弥 高七回卒
本年二月二十一日大達弥他界いたしました。色々と生前お世話になりました。

勾坂 節子 高一回卒
長い間いろいろお世話になりましたが、去年死去しましたので、お知らせいたします。

勾坂 節子 高一回卒
長い間いろいろお世話になりましたが、去年死去しましたので、お知らせいたします。

勾坂 節子 高一回卒
長い間いろいろお世話になりましたが、去年死去しましたので、お知らせいたします。

勾坂 節子 高一回卒
長い間いろいろお世話になりましたが、去年死去しましたので、お知らせいたします。

勾坂 節子 高一回卒
長い間いろいろお世話になりましたが、去年死去しましたので、お知らせいたします。

勾坂 節子 高一回卒
長い間いろいろお世話になりましたが、去年死去しましたので、お知らせいたします。

勾坂 節子 高一回卒
長い間いろいろお世話になりましたが、去年死去しましたので、お知らせいたします。

草花がとても懐かしいです。思い出すのが・・・

松井 昭夫 高十五回卒
Golfに仕事と、元気でやっています。

村上 和久 高二十回卒
大阪から引越してきました。今回初参加です。よろしくお願います。

寺沢 康夫 高二十回卒
ご案内をいただく度に、参加を希望してはいますが、十一月十二月は繁忙期となり、春季の開催のご、考お願いたく思っております。

姉川 眞樹 高二十回卒
もうすぐ定年退職いたします。年内には実家帰りに帰ります。

森田 重敏 高二十一回卒
早いもので高校卒業四十周年、還暦を迎える年齢になりました。より一層、母校や郷里に対する思いは強くなっています。

みなさんにお会いし楽しい時間を過ごす事ができればと思っております。

仙台で同級石川準次君に会いまして。

榛葉 博明 高十二回卒
週三回人工透析をしており身体は夕方夕夕の毎日ですがまあまあ生きています。

鈴木 武志 高十二回卒
癌の病気を患って、七ヶ月入院し現在自宅療養中です。御連絡が遅れてすみません。まだ外出は無理です。

木村 延景 高十四回卒
山の選抜(甲子園)でお会いできて嬉しく思いました。

盛会をお祈りします(山口より)。



祝二十周年記念スナップ



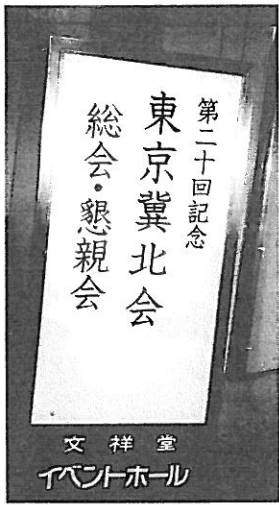
丸尾先輩(右)「95歳益々元気」



河原崎会長あいさつ



校歌斉唱「みんない顔」



第二十回記念
東京 冀北会
総会・懇親会

文祥堂
イベントホール

会場は銀座のど真ん中